

ふるさとわがまちづくり

平戸橋自治区

◆「平戸橋」の由来

平戸橋自治区は、旧石野村に属し、勘八峡沿いに発達した風光明媚な自治区で、まちの中心は平戸橋東詰の国道153号線沿いに集中しています。

現在は矢作川に架かる平戸橋を中心とした広い区域を平戸橋町と呼んでいますが、元来平戸橋を名乗ったのは、この自治区が最初でした。

この地は、平戸橋町馬場瀬といいますが、馬場瀬とは、川の淵の狭い所という意味だそうで、上流の広瀬が川の淵の広い所だといわれています。

当区の東側は丘陵が矢作川まで続き、片方は崖で、この間の僅かばかりの土地に国道が走り、家が建っています。

こうした地理的条件から農業はほとんど発達せず、以前は自治区東側の丘陵地対岸の青木町などに田畑を持っていた人もいましたが、現在ではその田畑も宅地になってしまいました。こうした実状から、当区はサラリーマンと商家がほとんどです。

昭和の始め頃は、わずか15軒程度でしたが、現在ではもともと当区にいた人よりも、そのほとんどは他の地区からこの地に移り住んだ人ばかりです。

今でも医者、旅館、菓子屋など商店が多いのですが、以前にも米屋、呉服屋、籠屋、自転車屋、薪炭問屋などがありました。商売をするにも必ずしも好ましい場所ではないのですが、飯田



街道が明治時代になって平戸橋の架設によって当区内を通ったことや、昭和初期の越戸ダム建設のための労働者が多くいたこと、あるいは平戸橋下流には土場があり、上流から1本流しの木材をイカダに組み直すための人夫達が生活していたことなどの理由によるものです。

◆馬場瀬古墳について

馬場瀬古墳群は今から約1300年前に、この地方を治めていた豪族とその一族のお墓ではないかといわれ、一号古墳から八号古墳まで8ヶ所に点在しています。



自治区から望む勘八峡

一号古墳は以前、馬場瀬神社の裏手の畑の中の一本松が目印でした。古墳横には弘法大師のお地蔵様がまつられて、地元の人達によって年一度の祭礼が行われていました。現在は畑も住宅地となり、弘法大師像も周辺の地蔵さんと一緒に馬場瀬神社の南側の1ヶ所に集まってまつられています。

2号古墳は馬場瀬神社の境内に跡地が残っています。3号～7号古墳は平戸橋区民会館の南に山林の中に点在しています。跡地だけで目印になるようなものはありません。4号古墳の近くに案内碑が昭和50年頃建立され、それが参考となっています。8号古墳は昭和50年頃復元され横穴式の大人でも充分入れる石室が出来ています。大きさの規模では豊田市の近郊では最大級の古墳だと云われています。この馬場瀬古墳群について豊田市文化財として平成20年6月に史跡指定されました。

今後は周辺を含めて整備計画が行われると聞いています。地元としては大きな期待をして楽しみにしています。

古墳を見学に来る人達もありますが足場が悪いとの声を聞きます。見物者用道路整備がされることで大勢の人々が訪れていただくのではないかと、地元では楽しみにしています。

平戸橋自治区示一々

(H20.4現在)

世帯数：52世帯
：27世帯(昭和51年)
組数：4組
面積：0.25Km²
自治区たより：「まぼせだより」年4回発行
回覧：月2回
防犯灯設置箇所：8箇所
小学校：青木小学校区
自治区会館：平戸橋区民会館